

問に答ふ

■一 『みづゑ』七十八「日ざかり」の空の描法の如きは如何なる場合に應用すべきや
■二 水彩畫に油繪具を用ひることありときけど如何なる場合にや
■三 アルコールを以て筆洗の水の凍るを防ぐとして繪具は變色せざるやまた他に良法なきや
■四 木炭畫研究に石膏以外何がよろしきや
(SM生)◎一 空の明るくして強烈の感ある場合
■二 曾てきかず、油繪筆の間違ならずや、パステルは混用することあり但水彩畫に油繪具を用ひて悪いとは言へまいが、下地が違ふから良好の結果は得られまい
■三 あまり經驗なき故よくは知らず、嚴寒中は室内寫生がよからん、是非戸外にゆく必要あらばパステルなどよからん、
■四 光澤なき木綿の白布をさまざまの形に置くは面白からん
■一 川を上流から見た時の描法
■二 二三間目前の障子を裏より見たる描法
■三 水貼方法
■四 近景の瓦屋根(遷喬會内)◎一 よく自然の形態を觀取して寫せばそれが現は

れるが、初學の人にはむづかしい、一つの川中の岩でも、上流に面した方と下流に面した方では其色にも相違がある、それ等の微細の研究が出来るやうにならぬいうちは手をつけぬがよい
■二 見えた通り畫きたまへ、たゞ障子といふたとて、其時の光線にもより形も種々ある、紙上で返答の出来るものではない
■三 初めに畫板を用意し、紙の表裏を充分水の含むだ海綿で軽く磨つて、紙が巻いても跳返らぬ程度にぬらし、別に三四分の幅の厚紙に、極々硬い糊を充分つけて四隅を貼つけてゆくの、經驗がないと旨くゆかぬ
■四 本號挿繪を見たまへ
■一 小生本年十八歳今後五年間學資の支給を受ける約束にて上京し研究所に入らんとす卒業後獨立生活が出来るものにや、また上京期は直ぐがよきや二三年自宅獨習後がよきや
■二 繪畫上の約束とは如何なる事を言ふにや(KY生)◎一 其人の勉強の程度畫才の有無、並びに社交的方面の上手下手にて、五年後必ず自活されるとは限らぬ、美術の研究を飯の種にする

心持でなく、自分の趣味の上から、乞食をしても一生やつて見たいといふ様な心掛けて初めなくては駄目、次に上京するなら一日も早い方がよい、研究所の一ヶ月は田舎で獨習する一ダケ年にも二ケ年にもまさる
■二 繪畫は如何なる條件を具備するかといふのにや、何れにしても此問題のお答へは狭い此の紙上では出来ぬ、『寫生畫の研究』を御一覽ありたし
■一 テンペラとフレスコとはいかなる畫にや
■二 パステルは他の繪畫よりも褪色し難いといふ、然るか
■三 パステル用ファイキサチフの製法ラツクは地方にもありや
(TT生)◎一 テンペラとは彩料を玉子の白味で解いて畫く者としてある、十二三世紀頃に伊太利で流行したさうだ、今でも西洋でやつてゐる人もある。フレスコとは壁畫といふことで、石灰で下地を作り、其上に同じ石灰に彩料を混じたもので畫いてゆくののであるが、是も十五六世紀伊太利に盛大であつた、今では壁畫は油繪で描くのが多い
■二 ある書には褪色が早いといひ、或書には一番變色が

ないといふ、語験が尠いから分らぬが、
良好の繪具を用ひて保存に注意したなら
油繪位ひの壽命はあるかも知れぬ**三** 製
法を知らず、ラツクは地方でも大きな藥
店ならあるでせう**一** 快晴の夏の日眞
晝頃の太陽を寫生せんにはいかなる方法
がよいか**二** コマ繪と漫畫とは違ふのに
や、七十五號の「伊豫がすり」は漫畫にや
また漫畫には樹木をあのやうに畫くもの
にや**三** 渡部先生の落款はいかなるわけ
にや(越後R)◎**一** 眞晝といへば太陽は
天の中心にあり、仰向て寫すのだが、何
の必要ありての研究にや、朝とか午後と
かの太陽を畫きし繪を見た事あれど、夏
の眞晝の太陽の繪を見たともなく、描か
うと思つた事もない故描法は知らず、但
午後など太陽の光を前にして寫生する事
あれど、太陽其物を主とせず、逆光線に
よつて現はれたる樹木などの色の變化を
寫したものは多い、また太陽の描寫は、
繪具をつけて出来るものではなく、光り
の感じ故、空や他の物象の色を研究して
赫々たる趣を出すのである、**二** 違ふ、

コマ繪の中には漫畫風のもの多數ではあ
るがコマ繪全體は漫畫ではない。また
『伊豫がすり』は漫畫で、樹木の描法の如
き一定の規則のない處が即ち漫畫である
趣さへ見えれば正直に寫さなくともよい
譯である**三** よく見たまへ、太い白字で
SWと二つの字が含まれてゐるから**四** 公
私設展覽會へ素人や繪に無關係のものに
ても出品出來ますか(新宿の愛讀者)◎公
設展覽會は同規則に従ひさへすれば誰れ
でも出せます、但鑑別の程度は随分高い
からよほど立派なるものでないと及第し
ませぬ。次に私設は會によつて拒むもの
もあります、多くは鑑別の上陳列を許し
ます、其展覽會の初まる一月程前に其會
へ照會してごらん**四** 『月刊スケッチ』『ハ
ガキ文學』はまだ發行されてゐますか、
又森親子商會のラフェルチューブの品質
は如何(陸前RY)◎前者は數年前廢刊、
後者は昨年頃『青年』と改題せしが近頃見
かけず。次にラファエルの繪具は佳良な
るものあり不良のものもある、概してニュー
トン位ひのもの**一** 十錢以上二十錢位

ひのチューブ入繪具で私共に最も適當な
ものを知りたし**二** 俗に云ふ赤濁りの川
の色が赤にも黄にも青にも見える、晴れ
の時は如何な方法にて描くべきか**三** ワ
ットマンの表裏は仕上たる繪の上に影響
ありや(宮崎孤兒)◎**一** ニュードン製は
近頃少く評判があるいがとに角一番安心
で、普通色は一本十五六錢、佛國製大形
チューブも少し粗いが使用に適す、この
分は十三錢程**二** 現場へ往つて見なけれ
ば分らぬ、見えたやうに正直に研究して
見たまへ**三** 別に目立つた影響なし**四** 毎
號寄書登載の順序は優秀なるものを先に
するにや(伺生)◎別に順序なし、其季節
に應じたものから採用する、長文は削る
こともあり、文字違ひ假名違ひは訂正す
る、あまり上手でない文章は多少添削も
する、全然無益と思ふものは没書にする
が、併し可相成登載する、但委節遅れの
ものは來年の同時節迄保存して置く
一 新聞小説等の風俗寫眞等を摸寫して
練習すれば人物スケッチの研究になるや
二 風景の寫生には蔭影は普通同色に

て施こし、極めて暗い處に反對色を用ひるものにや三 本年冬期 水彩畫講習會ありや(畫狂者)◎一 大家の眞面目に畫いたものなら摸寫も相應に利益あれど、實物寫生に如かず、詰らぬものゝ模寫は大害ありて一利なし二 蔭影の色はそんな單純なものではない、充分研究自得すべし、希くは『寫生畫の研究』を一讀され

たし三 來年一月二日頃より五日間徳鳥市に於て開かるゝかも知れぬ■一 中學卒業後美術學校へ入學すると研究所に於て勉強すると何れが進歩早きや二 多くの先輩の繪を見るは有益なりときげと年二回の展覽會のほか繪を見る機會なし何か方法なきや(SI生)◎一 美術學校へ入つてゐたならどんな人でも五年目には自然に卒業する、私立の研究所では殆ど卒業期が極まつてゐない、美術學校では出来る人も出来ぬ人も一樣に教育をうける、研究所は腕次第、どちらがよいとも言へぬ、自分で選ひたまへ二 常設美術館なき日本では、今の處止むを得ざるべし、但願書さへ出せば小石川の水彩

畫研究所に開かるゝ毎月第四日曜日の月次會に出席し得べし、陳列の繪畫は多く生徒の作品なれども眞面目の研究になりしもの故却々利益する處多からん

紹介

◎幽學全書 田尻稻次郎編纂

神田表神保町 同 文 館

菊判クロス美裝五六頁定價壹圓五十錢

大原幽學は近代の聖人にして、其名甚しく世に傳はらずと雖も、學識廣汎人格高俊一世に冠たり。偶々田尻博士、高木千次郎氏を起して幽學の事蹟を蒐集し、其遺訓を集めて幽學全書一卷をなす。聖賢の言は時の古今と地の東西を問はず、尊重すべし、されば自ら修養せんと希ふの士は、此書を再讀三讀せよ、得る所必ず大ならん。

◎少年少女物語 沼田笠峯氏の著すとこゝろ、三百頁に近き四六版の美しい本で、中には二十あまりの面白い物語がある、丁度尋常四五年から中學一二年迄の人に喜ばれるもので、挿繪は太田三郎君が畫

いてゐます(定價六十錢神田表神保町同文館)

◎寫眞月報展覽會號 本年五月上野に開かれた展覽會中の傑作十五枚を眞寫銅版にしたもの、それに畫評が添へてある、面白い圖柄も澤山あつて、寫眞界の進歩がよく分かる(定價六十錢日本橋本町二丁目寫眞月報社)

◎旅より旅へ 吉江孤雁著(定價四十五錢神田裏神保町光風館發行)これは次號に紹介します。

日本水彩畫會新會友

新潟縣三島郡片貝村高梨 岡村 準治
 千葉縣山武郡鳴濱村白幡 藤田 勝吉
 山口縣都濃郡花岡町 小幡 一夫
 福井縣坂井郡大石村井向 水島文五郎
 福井縣敦賀郡黒川尋常小學校
 輕部 清助
 福井縣坂井郡坪江村笠岡 三上助之丞
 京都相國寺中玉龍庵内 佐藤恭次郎
 京都五條橋東六丁目二十七山口萬治郎
 栃木縣喜連川町四三 大村松之助